

旭川高専

春光台フラワーロード事業にボランティアとして参加

標記、春光台フラワーロード事業において、高橋校長をはじめ教職員・学生など十数名の有志によるボランティア協力のもと、5月23日(日)には、本校周辺の街路樹花壇の草取り・堆肥入れ・荒起こしを、6月13日(日)にはマリーゴールドやサルビア等の花の定植作業を行いました。

この事業は、本校の所在する旭川市春光台地区で例年行われているもので、環境整備の一環として、街路樹花壇に色とりどりの花を植え、地域を彩るという目的の下、春先の花壇の草取り・堆肥入れ・荒起こしから、花の定植、そして花が咲き終わった秋に花壇の花の抜き取りを行い、花壇の手入れを行うものです。

ボランティア事業当日は、5月、6月の両日ともに天候にも恵まれ、参加者はそれぞれが心地よい汗を流しながらの充実した作業を行いました。

定植作業後の街路樹花壇は、サルビアの赤やマリーゴールドの黄色の花々できれいに色取られました。

ボランティアにより植えられた花々は、これから初夏に向け本校の周辺を彩り、地域住民をはじめ道路を通行する方々の目を楽しませてくれることと思います。



和歌山高専

「ものづくり分野の人材育成・確保事業」～県内のものづくり企業への人材供給～

和歌山高専は、卒業生の半分強が就職し、半分弱が進学するという平均的な高専です。学生の8割が県内出身者ですが、卒業後に県内に残る者は就職希望者の2割、卒業生全体の1割に過ぎません。換言すれば、多くの学生を県外に送り出す学校となっています。

このため、県や地元銀行の後押しの下で、一昨年より県内企業に関心を持って貰う取組を進めています。行った施策は、①地元企業のトップを講師に招いた選択科目『企業実践講座』、②地元企業が学内に一同に会する『企業合同説明会』、③地元企業を訪問し、現場で話を聞く『プチインターンシップ』の3つです。

これらの施策の結果、従来20名弱(卒業生の約1割)だった地元企業への就職者が、平成21年度では27名と約1.5倍に増加しました。地元企業への就職者がどの程度必要かは議論がありますが、8割の学生が県内出身者であることを考えると、まだ少ない感があります。

高等専門学校の最大の特徴は、高い求人倍率です。社会の高学歴志向にも関わらず、企業からの求人は多いです。喜ばしいことであると同時に、企業の要望に応える必要性も痛感しています。就職する学生には、地元企業にも関心を持ってもらい、地域の発展に貢献してほしいものです。



企業合同説明会
企業ブースで説明を受ける学生



企業実践講座で講義する中野BC中野社長

鈴鹿高専

「シャクヤクまちづくり事業」

ボタン科に属するシャクヤクとボタンの花弁と葉に強い抗菌活性を示す成分が含まれていることを本校が明らかにしました。このシーズは産学官連携の研究開発事業(財団法人三重県産業支援センター「抗菌消臭サポート研究会」)に発展し、国・三重県及び鈴鹿市からさまざまな支援を受けています。これらの支援によって、シャクヤクの花弁から抗菌成分を分離精製し、1, 2, 3, 4, 6-pentagalloylglucose (PGG) であることを突き止めました。PGGは抗菌作用だけでなく消臭、A型インフルエンザウイルス不活化、毒素阻害などの作用があることも分かりました。現在、研究成果を活用し、PGGを付着させた抗菌制服が鈴鹿高専で販売されています。今年中に消臭石鹸も販売される予定です。

またSUZUKA産学官交流会の環境植物研究会が「シャクヤク街づくり」の活動を推進し、鈴鹿市内の畑(約1,500㎡)で約1,500株のシャクヤク栽培を行っています。ここで育てたシャクヤクの一部は生物応用化学科4年次開講科目「創造工学」の授業で使われ、学生は個性あふれる「シャクヤクものづくり」に取り組んでいます。

近い将来、鈴鹿で育てたシャクヤクがまちづくりの事業に使われることを願って多くの仲間が頑張っています。



シャクヤク畑とシャクヤクの抗菌成分を付着させた制服

広島商船高専

「上海万博・遣唐使船再現プロジェクトに参加して」(専攻科海事システム工学専攻1年 瀧田 聡樹)

「上海万博・遣唐使船再現プロジェクト」とは、角川文化振興財団が主催し、奈良の平城遷都1300年を記念して、日中友好の歴史的なシンボルである遣唐使船を再現し、今年開催中の上海万博に出展するものです。このプロジェクトに出てみたいかという話を聞いたとき、私は参加するか迷いましたが、「21世紀の日中友好の一端を担いたい」と思い参加を決意しました。私たちが上海に派遣された目的の1つである上海港内での遣唐使船のデモ航海は、直前までその可否が心配されましたが、無事に行うことができ、上海市民にその優雅な船体を披露することができました。翌日の上海万博内でのパレードでは、遣唐使の衣装に着替えてから、空き時間を利用して、各国のパビリオンを見て回りました。会場内で遣唐使の衣装は良く目立ち、中国人の男女から声をかけられたが、中国語も英語も勉強不足だった私は、満足のいく交流ができず残念でした。

パレードは天候にも恵まれ、沿道にはたくさんのお見物客が手を振って私達を歓迎してくれ、大成功をおさめました。夜にはプロジェクトの関係者、遣唐使船の中国人乗組員、広島商船高専からの参加者で打ち上げパーティを開催しました。会場全体が達成感・安堵感に包まれ、私達は中国人乗組員と言葉は通じないけれども、何度も乾杯しました。まさしく「日中友好」の言葉に相応しい打ち上げパーティだったと思います。最後に、このような貴重な機会に恵まれたこと、今回お世話になった全ての方々に感謝いたします。

